

第7回日本吹奏楽アカデミー賞

演奏部門

安倍 圭子 殿



□推薦理由

長年、マリンバ奏者として世界的に活動をされており、1996年度の日本吹奏楽指導者クリニック他において吹奏楽との共演を行いそのすぐれた音楽性と高い技術でわが国の吹奏楽界に新風を吹き込んだその功績は高いものがあります。

□推薦内容

日本バンドクリニック委員会主催の「ゴールデン・コンサート」においてマリンバとウインドアンサンブルのための「ピリズム・ラブソディー」を演奏し、素晴らしい演奏を行い聴衆に感動を与えました。

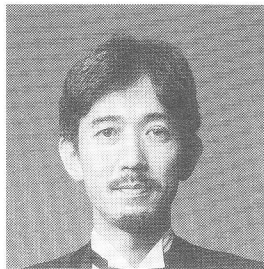
□プロフィール

国際的なマリンバ演奏家。演奏活動は40ヶ国、指導大学は世界70校余りに及ぶ。マリンバの新奏法を次々と開拓して音楽表現の幅を拡げ、作曲家への委嘱活動及び安倍自身のオリジナル作品を生み出す事により、マリンバを独奏楽器として確率させた。文化庁芸術祭賞6回受賞。1993年、国際打楽器芸術協会より、唯一の日本人としてホール・オブ・フェーム栄誉賞受賞。現在、桐朋学園大学教授、世界マリンバ・コンクール総監督、他。

第7回日本吹奏楽アカデミー賞

作・編曲部門

真島 俊夫 殿



□推薦理由

真島俊夫氏は継続的に作・編曲活動を行っており、これまでに数多くの吹奏楽作品等を発表し、高い評価を得ている。また、クラシックからジャズ・ポピュラーまで多くのジャンルをてがけそれらの作品は数多くのコンサート等で演奏されております。

□推薦内容

関西学院大学吹奏楽部の委嘱により「三日月にかかるヤコブのはしご」を作曲。1996年東京佼成ウインドオーケストラのCD「日本の作曲家シリーズ」に取り上げられ大変好評を博す。その他にも97年度吹奏楽コンクール課題曲を作曲するなど、その継続的な活動はすばらしいものがあります。

□プロフィール

中学時代に吹奏楽と出会いトロンボーンと編曲を始める。大学在籍中、ヤマハ・バンドディレクターズ・コースに奨学生として入学。和声法と作・編曲法を兼田敏氏に、ジャズ理論を内堀誠（故）に師事する。

現在、吹奏楽における本格的ジャズ・ポップス・アンサンブル「ウインド・ストリーム」を率いると同時に、東京コンセルヴァトワール尚美、ヤマハ音楽院の講師を勤める。

第7回日本吹奏楽アカデミー賞

研究部門

※第7回日本吹奏楽アカデミー賞研究部門表彰者は該当なしと決定いたしました。

第7回日本吹奏楽アカデミー賞

制作部門

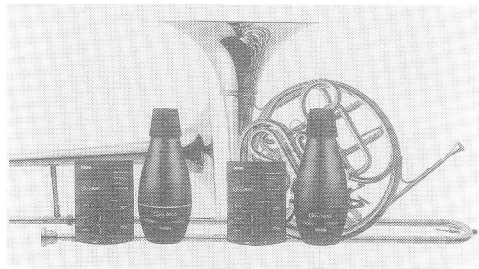
ヤマハ株式会社 殿 (ヤマハサイレントブラスシステム)

□推薦理由

ヤマハ株式会社の製作によるこのヤマハ・サイレント・ブラスシステムは、日本の管楽器普及のための問題点である練習のための場所と音という問題が解決され、管楽器をやりたくても練習場所の問題等であきらめていた人々に大いに役立ちまさに朗報となりました。

□推薦内容

ヤマハ・サイレント・ブラスシステムの、
・音のエネルギーを1/1000に極小化。
・自然な吹奏感。
・リハーサルルーム、コンサートホール等の残響効果。
・伴奏CDとの共演。
これらの内容は、管楽器普及の一助でもあり世界的にも高い評価を受けております。



□プロフィール

1995年にヤマハ株式会社よりヤマハ・サイレント・ブラスシステム(SB7)トランペットが発表され、その後1996年にトロンボーン、フレンチホルン用が開発。今後、ユーフォニアム、チューバ用の開発が期待されている。

第7回日本吹奏楽アカデミー賞

啓蒙部門

株式会社 音楽之友社 バンドジャーナル 殿

□推薦理由

1959年(昭和34年)に創刊。以来長年にわたり吹奏楽および管打楽器に関する情報を誌面において提供し、わが国の吹奏楽と管打楽器の世界を常にリードし、その発展を側面から支えてきた功績は計りしれないものがあります。

□推薦内容

吹奏楽および管打楽器の情報誌として、毎月発行し、学生・教師・演奏家・その他音楽関係者等幅広い層の読者に購読され、わが国の吹奏楽および管打楽器の発展に大きく貢献し続けている。



□プロフィール

1959年音楽之友社より創刊。毎月4日に発売。発行部数100,000部。幅広い読者層を対象に、
・コンクール情報 ・コンサートハイライト
・新製品の情報 ・ワンポイントレッスン
・新譜の紹介 ・コンサート案内 他
を編集・発売している。

特別部門

齋藤 三郎 殿



□推薦理由

長年にわたり日本の管楽器製造・修理に携わり、日本の管楽器製造に大いに貢献し、日本楽器を退職後も、全国の楽器技術者、音楽学校の学生、中・高の吹奏楽指導者、生徒等に修理・メンテナンス等を熱心に指導し、その業績は、素晴らしいものであります。

□推薦内容

現在のわが国の吹奏楽の発展は、楽器製造技術の向上によるところが大きく、齋藤氏がこれまでに果たされてきた楽器製造他におけるこれらの業績は、日本の管楽器の歴史そのものであります。

□プロフィール

昭和7年合資会社日本管楽器製作所入社。
13年徴兵。陸軍騎兵隊 15連隊入営。
16年現役除隊。日本管楽器（株）に復帰。
37年東京吹奏楽器技術協会副会長。
45年優秀技能賞（労働大臣）受賞。
同年日本楽器と合併。埼玉工場課長。
47年黄綬褒章受賞。51年同会社退職。
52年埼玉技能士連合会（名誉会員）
54年日本楽器リペアスクール講師。
61年日本楽器リペアスクール退職。
62年尚美学園リペア講師、平成元年足跡（ニッカン）出版。
平成3年尚美学園リペア退職、平成7年尚美学園短大リペア講師。

〈過去6回日本吹奏楽アカデミー賞の実績〉

[第1回日本吹奏楽アカデミー賞]

- 演奏部門／フレデリック・フェネル博士と東京佼成ウインドオーケストラ
- 作・編曲部門／（故）大栗 裕
- 研究部門／根本 俊男

- 制作部門／（株）東亜音楽社
- 啓蒙部門／日本バンドクリニック委員会

[第2回日本吹奏楽アカデミー賞]

- 演奏部門／北瓜 利世
- 作・編曲部門／保科 洋
- 研究部門／赤松 文治

- 制作部門／岩井 直博
東芝EMI株式会社
（株）ヤマハ音楽振興会
- 啓蒙部門／大森喜代三郎

[第3回日本吹奏楽アカデミー賞]

- 演奏部門／東京吹奏楽団
- 作・編曲部門／兼田 敏
- 研究部門／福井 一

- 制作部門／（株）佼成出版社
- 啓蒙部門／鈴木 竹男

[第4回日本吹奏楽アカデミー賞]

- 演奏部門／大阪市音楽団
- 作・編曲部門／伊藤 康英
- 研究部門／一該当者なし

- 制作部門／東芝EMI（株）A&R
第5本部制作1部
（株）村松フルート製作所
- 啓蒙部門／一該当者なし

[第5回日本吹奏楽アカデミー賞]

- 演奏部門／トルヴェール・クワルテット
- 作・編曲部門／櫛田朕之扶
- 研究部門／小澤 俊朗

- 制作部門／一該当者なし
- 啓蒙部門／バンドピープル
- 特別部門／（株）石森管楽器

[第6回日本吹奏楽アカデミー賞]

- 演奏部門／上野の森プラス
- 作・編曲部門／小長谷宗一
- 研究部門／一該当者なし

- 制作部門／ブレーン（株）
ビデオマガジン・ウインズ編集部
- 啓蒙部門／NHK「プラスの響き」
- 特別部門／関西吹奏楽連盟
救世軍ジャパニスタッフバンド
（財）多摩市文化振興財団